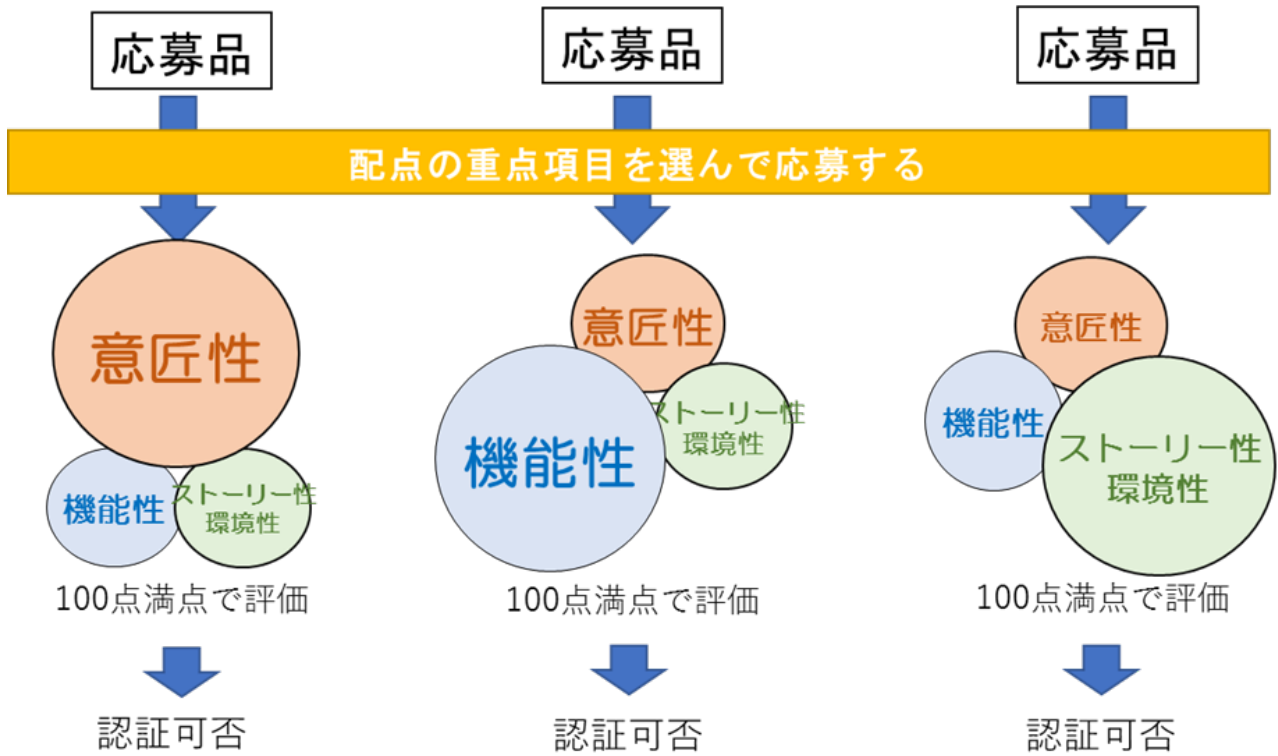


令和5年度 ACTR

分類 番号	A15	取組 名称	北山杉・京銘竹等の京木竹材の標準化(規格化)—伝統工芸技術継承を含めた科学によるトップブランド化—
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 古田 裕三
研究担当者：			
【京都府立大学】：古田裕三【外部分担者】三重大学：瀧上佑樹氏【外部研究協力団体】京都市都市計画局都市景観部風致保全課：渡邊大郎氏、京都府農林水産部林務課、京都市産業観光局農林振興室林業振興課、京都木材協同組合：谷口吉昭氏・浅岡秀哉氏、京都府産木材利用拡大協議会：堀井誠司氏、NPO法人京都発・竹・流域環境ネット：吉田博次氏、(株)アドプランツコーポレーション：増永滋生氏 他			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都市都市計画局都市景観部風致保全課、京都府農林水産部林務課、京都市産業観光局農林振興室林業振興課、京都木材協同組合、京都市域産材供給協会、京都府森林組合連合会、京都府木材組合連合会、京都府産木材利用拡大協議会、NPO 法人京都発・竹・流域環境ネット 他			
【研究活動の要約】			
北山杉などに代表される京都の木材と、京銘竹などに代表される京都の竹を、伝統工芸的要素を継承しつつ科学的な知見も加えることによって現代のニーズに見合った製品をトップブランド化するためのシステム作りについて様々な調査・検討を行った。その結果、本年度は、まず京都の木製品についてブランド化をすることを目的として、行政や専門家、ブランディングに詳しい他分野の専門家等を含めて委員会を構成し、標準化を行うべき項目（例えば、デザイン性、科学的優位性、環境的優位性、など）、審査の方法、今後の委員会や企画の運営体制等について議論を行い、一定の結論を得た。その成果を基に、次年度は京の木製品認証制度をスタートさせるとともに、運用上支障のある部分やその他の部分について検証を行い、認証制度をより精度よく確立していく。得られた成果は、本年度は調査中心であった竹（特に放置竹林材）の認証制度設計時の重要な参考・設計資料とする予定である。			
【研究活動の成果】			
木材と竹材のそれぞれについて、標準化（規格化）により、京都独自のトップブランド化を行うことを目的として、様々な調査・検討を行った。得られた主要な成果は以下の通りであった。 【木材】：「京都の木」ブランド化規格を作成した。一例として、評価方法と基準について後の図に示す。評価方法としては、意匠性、機能性、ストーリー・環境性などに分け、応募者がどの部分について重視して審査・評価もらいたいかを主張して応募し、審査員は、応募品の種類（特性）に応じて、柔軟に対応し審査する、といった方針となっている。 【竹材】：令和5年度は、どのような項目がブランド化にふさわしいのか（最終製品を認証するのか業者さんを認証するのか、放置竹林の竹のみを認証するのか、など）について、多くの情報収集や意見交換を中心に行った。その後、今後の標準化（規格化）委員会の素案（たたき台）を作成した。			
【研究成果の還元】			
「京都の木製品認証制度 設立準備委員会」を立ち上げ、委員やオブザーバーに参加いただくとともに、委員会後に京都木材協同組合を中心に広報・情報提供を行った。委員会の日程等は下記の通り。 第1回 令和5年7月14日（金）、第2回 令和5年9月11日（月）、第3回 令和5年11月14日（火）、第4回 令和6年2月16日（金）、いずれも京都木材会館			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科生物材料物性学研究室 教授 古田 裕三 Tel: 075-703-5637 E-mail: furuta@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）

【評価方法と基準】



【ロゴマーク】

カラーバリエーション



C=25 M=45 Y=62 K=0
C79664
R=199 G=150 B=100
DIC2304



C=58 M=83 Y=75 K=34
623131
C=58 M=83 Y=75 K=34
DIC 2275



C=79 M=74 Y=71 K=45
323333
R=50 G=51 B=51
DIC 2366

